

矢掛豪雨被害一ひとつの回復



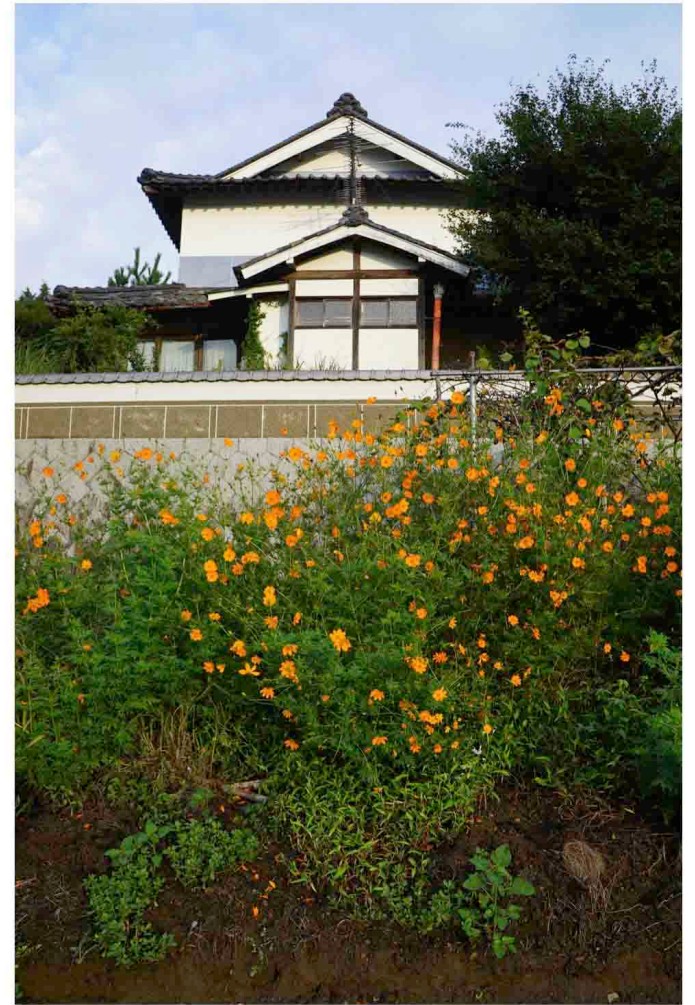
今日は9月2日。ぼくの生き返りの日。もう48年前のこと。

山の気を求めて朝6時、家を出る。

穂の出始めた水田の向うに高滝山が見える。その手前にたなびく雲はあの小田川の上に湧いた雲の帯。



平地を走るジョギングと、山中を走るトレイルラン。同じ走る運動だけれども心意気が異なる。
トレイルの場合は山に分け入り、山の気を感じ、頂点を極めるという高まりが有る。
平地の場合はそうした高まりは無いままにひたすら進むことになる。どちらかと言えばトレイルランがいい。
そんなことに70になって気付いた。
そう言えば香港では毎朝目の前のビクトリアピークに走って登って上機嫌だった。その矢掛版。
南山田の高みを走ると中山の稜線から太陽が昇ってきた。



南山田の農家はどれも何と見事な作りだろう。住人はこれが当たり前だと思っているのでとりたてて自慢するわけでもない。さりげない。そこがまたいい。



神の脇神社の横を通って山の麓に向かう。細い川を渡ると山道になる。
かつて村人はこの道を登って海側の鴨方を往復していた。今では誰も通らない。草が生い茂っている。
森の中に入ると俄然山の気が体を包み込む。何だか分からないがこれだ！これが欲しい。
一步一步歩かずに走る。どこまで続くか？ 前は半分まで。今回は？
平地を走るのとは違う抵抗感が目を覚まさせる。汗が吹き出る。何とか歩かずにヤッホー公園の駐車場へ。

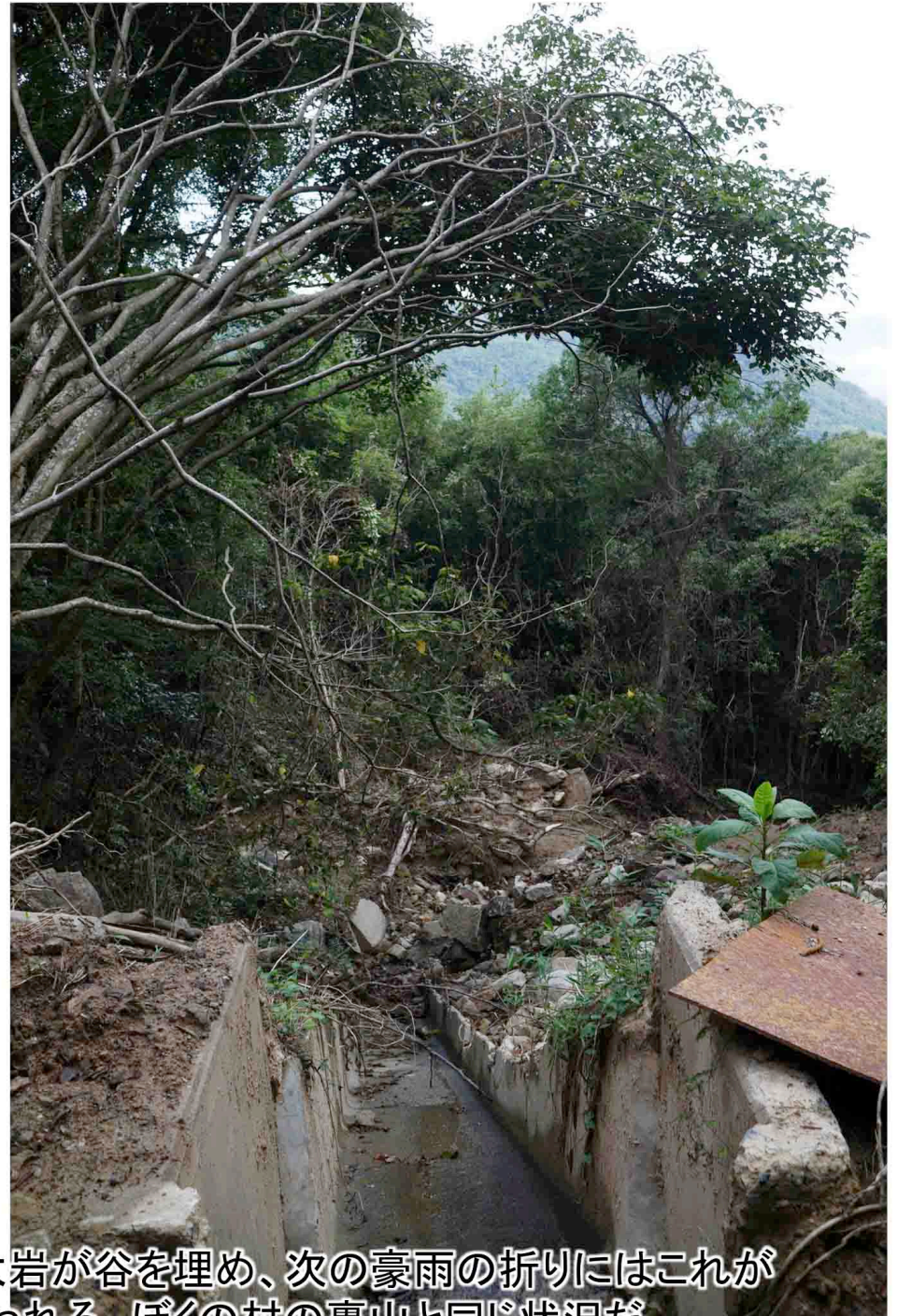


観音堂の亭まで登り一休み。体中で山の気を浴びる
ちょっとぼーっとしていると下の駐車場で軽トラの音がする。まさか！
途中の車道は土砂崩れで全面通行止めの筈だ。続いて草刈り機のエンジン音が始る。
土砂崩れは撤去されたのか？



駐車場には軽トラが止まり、すぐ横でシニアが周囲の草刈りを始めている。
土砂は2ヶ月ぶりに撤去されたということだ。「おはよう」と声をかけるがシニアは爆音で気付かない。
そのまま車道を現場まで下る。ほどなく、樹林の向うに何も無い舗装道路が朝日を浴びているのが見える。
前回ここに来たのは4日前。その時ここには膨大なでぶりが詰まっていた。
反対側に巨大なショベルカーが停車していて、ほどなく撤去されるのかと思ったがこれほど早いとは！
トレイルランは普段では味わえない高まりをもたらしてくれる。





さらに下の土砂崩れ現場。剥き出しになった大岩が谷を埋め、次の豪雨の折りにはこれが鉄砲玉のようになって麓を襲うものと思われる。ぼくの村の裏山と同じ状況だ。



森を駆け抜け国道に出て、南山田へと緩やかな坂道を下る。何という見事な景観だろう。土曜日の朝のせいかサイクリストが登ってきて「おはよう」。麓の田んぼの脇では芙蓉の花が勝手気ままに咲き誇っている。背後に今登っておりに来たヤッホー公園の岩場が見える。



空の雲は遠い台風のせいか流動的な姿。これはさしずめ龍の群舞か。
48年目の9. 2は穏やかながらも凜とした日になった。
石さんと甲府の関係者を回った熱い日々を思いだした。